

「文献調査報告書に関する説明会」でいただいた主なご質問を紹介します - その2 -

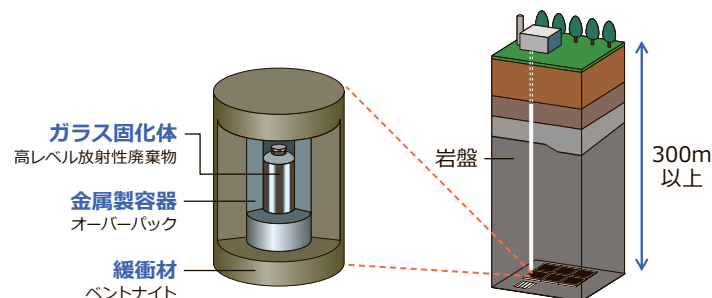
北海道寿都町と神恵内村で実施させていただいた処分地選定のための最初の調査である「文献調査」の結果について、北海道内で25回にわたって説明会を開催し、参加者の皆さまから、様々なご質問をいただきました。

合計 **2,000 件以上**のご意見・ご質問をいただきました。
すべてのいただいたご意見と、ご質問への回答は、
こちらからご覧いただけます。



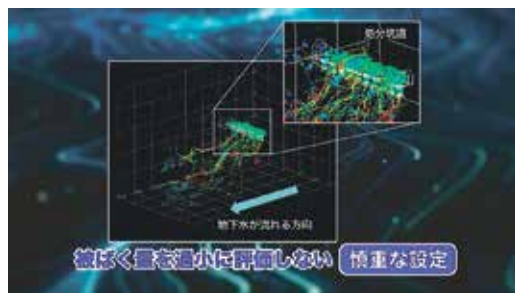
Q 将来数万年も高レベル放射性廃棄物を管理するのは不可能ではないか？

A 地層処分は、人間による「管理」を必要としないように、人工的なバリアを施したうえで、閉じ込め機能に優れる安定した岩盤を活用し、人間の生活環境から隔離して「処分」する方法です。
安全確保の期間は数万年以上と非常に長いため、あえて厳しい条件を設定し、シミュレーションを行っています。その結果においても、人間の生活環境には著しい影響がないことを確認しています。

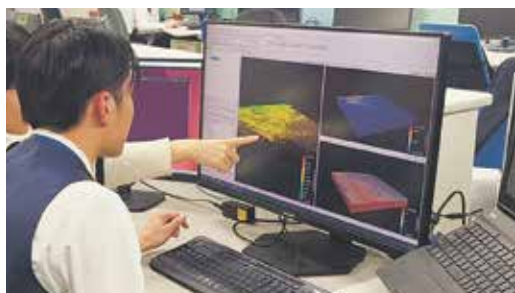


数万年以上にわたる 地層処分場の安全性について

長期にわたる地層処分場の安全性をこれまでの研究で得られた知見などを用いてどのように評価しているのかについて、コンピュータグラフィックス(CG)などを活用した動画でわかりやすく説明しています。



放射性物質が動く様子のシミュレーション



広域の地質環境モデルを使って地下水の流れを解析

Q 地震の多い日本での地層処分は不安です。

A 地層処分は、地震の影響を受けにくい処分方法と評価しています。

これまでの観測データから、地下深部のゆれは基本的に地表の“3分の1～5分の1”であることが分かっています。加えて、地震の際には、天然バリア（岩盤）と人工バリアが一体となってゆれるため、高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）が破壊される可能性は極めて小さくなります。
そのため、地震が多い日本でも、地層処分は現時点で最も安全で実現可能な処分方法と評価※しています。

※「包括的技術報告書：わが国における安全な地層処分の実現」
(2021年2月)

もっと詳しく/ 主なご質問と NUMOからの回答



説明会でいただいた主なご質問に対する回答を、「文献調査報告書の概要説明と質疑の場」における資料に掲載しています。

文献調査報告書は
こちらから



原子力発電環境整備機構 (NUMO)

<https://www.numo.or.jp>

NUMO

